

令和4年度

## 第1回静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校 学校運営協議会 報告

1 日 時 令和4年6月22日(水) 午後1時30分から午後2時45分まで

2 会 場 本校 相談室

### 3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

ほりお小児科医院 院長 様

特定非営利活動法人 焼津育成の会野いちご 監事 様

株式会社ストーク 専務取締役 様

本校 PTA 会長 様

(2) 本校職員

校長 副校長 部主事 教務課長 進路指導主事

### 4 会議次第

(1) 任命状交付

(2) 校長挨拶

(3) 学校経営計画説明

(4) 協議

ア 学校運営の基本方針

イ 企業就労に向けた中学校との連携強化

ウ 本校と地域の方々との相互理解の深化

### 5 協議内容等

#### <学校運営協議会とは：校長より>

- 学校運営協議会のキーワードは、「地域とともにある学校づくり」である。学校からの発信が多様性の理解やより良い地域社会の構築へとつながるようにしたい。この協議会の中で委員の皆様からご意見をいただきながら、学校と地域が双方向でかかわれる関係を深めていきたい。
- 学校運営協議会の主な機能は、学校運営の基本方針を承認、学校について意見を述べる、職員の任用に関して意見を述べる、の3つである。
- コーディネーターを北野八十次様に依頼する。⇒ 全委員：承認

#### <ア 学校運営の基本方針：副校長より>

- 目指す学校像、目標具現化の柱、本年度の重点目標について説明。  
⇒ 基本方針は承認された。

## <イ 企業就労に向けた中学校との連携>

- 就学支援の状況を見ると、小学校の特別支援学級から特別支援学校中学部への進学を希望するケースが多い。
- 中学校の特別支援学級を選択しない理由として、就労のためには特別支援学校に進学の方が良いと考える保護者がいるが、その選択に至る理由を考えるべきではないか。特別支援学校、中学校の特別支援学級・通常学級、それぞれの存在意義を明らかにし、役割を持たせると良い。
- 通常の中学校の特別支援学級の教育に魅力をつけていくことが課題である。中学校で特別支援学級を担当する教師のスペシャリストを養成したい。そのために、特別支援学校と支援学級のつながりを持つようにしてはどうか。
- 特別支援学校の教師についても、この専門教育に対する思いのある人に教師になってほしい。教師の熱い思いが大事。専門職であることの自覚を持ってほしい。

(学校から) 近年は特別支援学校についても教員採用試験の倍率が低下している。採用後も研修や日々の実践をとおして特別支援教育の専門性と熱意・意欲を高めていきたい。

- 教師に限らず、企業においても社会人としてのレベルの低下を感じる。指導したいがパワハラ問題になりかねないと思うと及び腰になる。しかし、一対一で話をすれば分かり合える。コミュニケーションが大事。コミュニケーションが全てと言ってもいい。

## <ウ 本校と地域の方々との相互理解の深化>

- 焼津分校のことを知りたい人はホームページを参考にすると思うが、そのつくりや内容についてさらに工夫した方がよい。

(学校から) 記事をまとめる視点や構成を見直しはじめたところである。外部の方に配布するリーフレットについても、焼津分校や特別支援教育に対する関心や理解の程度に応じて対応できるよう、複数のタイプを準備したいと考えている。

(学校から) 焼津分校の取り組みをより多くの方々に知っていただく発信方法のひとつとして、分校オリジナルビブスを作り、地域の商店や公共施設で地域作業に取り組む際に着用する予定である。

(学校から) 焼津分校、焼津水産高校の生徒にはそれぞれ得意分野がある。それらを活かした体験活動を行うと自然とよい表情になり、充実した交流になる。「共生・共育」という言葉を前面に押し出さなくてもよい。

- 焼津分校の学区は広い。「地域」には、学校のある地域と生徒が暮らしている地域がある。多くの生徒は卒業すると居住地で就労することを望んでいる。そう考えると居住地の地域も大切。地域作業の場所を学校周辺に限定せず、他地区にも拠点を置いて、より良い暮らしへとつなぐことを考えてはどうか。